

学習活動	時	主な主発問と期待する児童の姿	指導上の留意点	時	主な授業記録	考察
<p>【導入】 1 課題をつかむ。</p>	6	<p>しゅりけんは、ぜんぶでいくつでしょうか。</p> <p>・12こだ。</p>	<p>・10こ入りのケースに、しゅりけんが3こ入っている絵と9こ入っている絵を見せ、本時の問題場面を視覚的につかませる。</p>		<p>説明：今日もあれが届いています。 児：まきもの！ 指示：みんなで読んでみよう。 児：しゅりけんは、全部でいくつでしょうか。 説明：前と違って、ケースに入っています。（少しずつ見せる） 児：（見えた瞬間に各々で数えだす）1、2、3…12！12だ！ 発問：もう答え出たね、今日の勉強これで終わりだね！？ 児A：ちがう！計算の仕方を考えるんだよ。 説明：答えが12っていうのは、分かったね。今日は、その計算の仕方を考えましょう。（板書）</p>	<p>・子どもたちは、早く答えを知りたいと夢中になる。答えを出すと満足しがちである。そこで、子どもたちの答えを出したいという欲求を全員で確認することで満たし、その上で本時の課題に焦点化させた。児Aの発言から、本時で何をすべきかが明確に意識付けされたと分かる。</p>
		<p>3+9のけいさんのしかたをかんがえよう。</p> <p>・前の問題と似ているね。 ・同じようにすればいい。</p>				
<p>【展開】 2 計算の仕方を考える。（自力解決）</p>	5	<p>ブロックを動かして、計算の仕方を考えましょう。どのようにブロックを動かしたか、ワークシートに書いてみましょう。</p> <p>・10をつくると簡単だよ。 ・3とあと7で、10にしよう。 ・9とあと1で、10にしよう。</p>	<p>・ワークシートの上に、ブロックを置かせ、ブロックを操作させる。 ・丸で囲んだり矢印を使ったりして、考え方を図示させる。 ・終わった子どもには、言葉でも書くように促す。</p>	6	<p>発問：今までやってきた方法で使えそうな技あるかな。 児：10を作るの術。 発問：何を使って考えようか。 児：ブロック！丸（○）！ 指示：ブロックで考えた後に、○で考えてみましょう。</p>	<p>・学び合いを成立させるうえで、計算の仕方を考えるためのスタートラインを整えた。つまり、数え足しや2とびで数える方法ではなく、「10のまとまりをどう作るか」で考えることに焦点を当てた。</p>
				7	<p><机間指導> 全員が、被加数分解でしていた。</p>	
<p>3 考え方を発表し合う。（集団解決）</p>	10	<p>自分の考え方をみんなに発表してみましょう。友達がどんなことを話そうとしているのか、考えながら聞きましょう。</p> <p>・3のほうに、あと7つ足して、10をつくりました。10と残った2を足して、答えは12になりました。 ・3を1と2に分けて、1と9で10にしました。10と2で、12になりました。</p>	<p>・図示したものをもとに、考え方を話すように促す。 ・「10のまとまり」「10を作る」などのキーワードを板書しまとめる。 ・一人一人の発言をつなげたり、子どもたちの言葉で補ったりしながら発表させる。 ・子どもの図示した説明をもとに「さくらんぼ計算」でも表し、図から式へと思考をつなげる。 ・それぞれの考え方の違いを考えさせる。</p>	16	<p>指示：どんなやり方をしたか、教えてください。 児B：（被加数分解 一通り説明） 発問：○で囲んだのは、どうして？ 児：10を作ったから。</p> <p>発問：今まで習ったやり方は、こうだったよね。（加数分解を提示） こうじゃなくていいの？ 児：こっちの方が簡単だよ。 発問：簡単なの？本当？ 児：簡単だよ！</p>	<p>・全員が被加数分解で考えていた。 児Bに考え方の説明を求めた。もっといろいろな子どもと交代させながら、説明を促した方がよかった。学び合いの視点から、相手の意見を聞いたり、何を言おうとしているのかを理解させたりすることができたかもしれない。 ・全員が、被加数分解で考えていたため、教師側から加数分解の考え方を提示した。これまでの考え方との違いを視覚的にとらえさせ、被加数分解の意味を考えさせた。</p>
<p>4 被加数を分解する考えについて話し合う。（ペア）</p>	4	<p>どうして、前の数を分けたのでしょうか。</p> <p>・その方が簡単だから。</p>				

<p>5 被加数を分解する考え方についての理解を深める。 (集団解決)</p>	<p>10</p>	<p>ブロックを使って、両方のやり方で試してみましょう。やってみて、どちらが簡単だったか隣の席の人と話してみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> • まえわけの方が簡単だと思う。 1 こだけ動かせばいいから。 • 7 こも動かすのは、大変だよ。 <p>話し合ったことを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 3 から 1 をつけたほうが、すぐに 10 になった。 • 簡単に 10 といくつにできた。 • 速いと思った。 <p>さくらんぼ計算でもできるか、確かめてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> • さくらんぼ計算でも、できそうだよ。 	<ul style="list-style-type: none"> • ブロックを操作させることで、被加数を分解するよさを実感させる。 • 話をする視点をはっきりさせるために、簡単だった方とその理由を伝え合うよう指示する。 <p>• 実際に、教具を動かし、被加数を分解して 10 をつくった方が、簡単であることを全体で確認する。</p> <p>• 教師と一緒に、「さくらんぼ計算」の仕方を確かめながら書かせる。</p> <p>• 類似問題では、「さくらんぼ計算」で計算の過程を書くようにする。</p> <p>• 本時のまとめをする。</p>	<p>25</p>	<p>指示：本当に簡単かどうか、両方のやり方でやってみましょう。 説明：初めにうしろわけでやってみます。5秒数える間にやってみてください。(1・2・3… 数える) 児：(終わらない子ども、何をやったらいいのか分からない子どもが数名いた。) 説明：次は、前わけでやってみましょう。 (1・2・3… 数える)</p> <p>指示：どっちが簡単だったか、隣の人と話してみましょう。そう考えた理由も言いましょう。 児：うしろわけの方がいっぱいだから、7 こも動かすから大変。前わけの方が簡単。 児：前わけだと思う。(理由はなし)</p> <p>27 児：0秒でできた。1 こだから、すぐ 10。 児：すぐに 10 のかたまりができるから。 指示：どんなことを話していたか、教えて。 児：うしろわけはたくさん動かさなくちゃいけないけど、前わけは 1 個だけ動かせばいい。 児：うしろわけだと難しくて入れるのが大変。3 こから 1 こもらえばいいから前わけの方がいいと思う。 児：うしろわけだと×もいっぱい書かなきゃだめだし、ブロックも動かしづらくなる。1 こだけ動かせば計算がはやくなるから。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 子どもたちの考えを揺さぶり、実際に操作させることで、実感を伴った理解を促した。 加数分解のやり方では素早くブロックを動かすことができなかつたため、子どもたちに「めんどうだ」という感覚を味わわせることができた。しかし、何をどう動かしたらいいのか分からない子どももいた。 • どちらの方法も試したあとで、どちらが簡単だったか、またその理由を話すように指示した。話す視点があることで、子どもたちの話し合いの手順や話すべき内容が明確になった。しかし、どちらかを選ぶことはできても、理由を話せない子どももいた。ペアでのかかわり合いでは、一回のやり取りではなく、問い返すなど「言葉のキャッチボール」をする習慣付けが必要だった。今後の課題となった。 • 全体での学び合いで、それぞれの考えをまとめ、収束をさせることをねらった。被加数分解で計算した意味やよさについての発言が多出てきた。しかし、ペアでの伝え合いを全体での学び合いまで高めるためには、「ちょっと違う」「似ている」「付け足し」などの子どもの言葉を丁寧に集め、一人一人に返していく(もう一度操作を試してみる、ペアで自分なりに再度説明してみるなど)必要があると思った。
<p>【終末】 6 類題を解く。</p>	<p>10</p>	<p>今日、学習した前の数を分ける方法で問題にチャレンジしてみましょう。</p>				